

16 ○啼聲：声を出して泣くその声。「泣」が「なみだをこぼす」意に対し、「啼」は「声をあげて悲しみなく。人・鳥獸を通じていう。〈啼鳥〉は悲しみ鳴く意味ではないが、声をあげることについていう。

〔新字源〕「同訓異義」の頁 1273 頁)

『菅家文章』「95路次、觀源相公舊宅有感」に「殘燼華塼苔老色、半樵松樹鳥啼聲」の句が見える。

○杜鵑：ほととぎす。蜀王杜宇の魂が化してこの鳥になったという。子鶯、子規・催歸不如歸等の諸名があるのは其の声を各方言に随って呼ぶからである。

〔参考〕

▼杜宇：ほととぎすの一名。血を吐くような悲痛な声で啼く。其の声が「不歸歸去」と聞こえるという。左思の「蜀都賦」に「碧出長弘之血、鳥生杜宇之魂」の句がある。

『漢語大詞典』には「鳥名。又名杜宇、子規。相傳為古蜀王杜宇之魂所化。春末夏初、常晝夜啼鳴。其声哀切」と説明し、杜甫の「杜鵑行」の「君不見昔日蜀天子、化作杜鵑似老鳥。寄巢生子自啄、群鳥至今與哺雛」の句を引く。『白氏文集』「540 江上送客」に「杜鵑聲似哭、湘竹斑如血」の句が、「592 送春歸」には「何處送春曲江曲、今年杜鵑花落子規啼」の句が、又「603 琵琶引」に「其間且暮聞何物、杜鵑啼血猿哀鳴」の句が見える。↓補説②



補説①

○13 句目「臨岐腸易斷」の「腸易斷」に込められている故事